**桐原書店『新 探求現代文Ｂ』（国総341）　評価規準例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科目 | 単位数 | 学年 | 使用教科書 |
| 現代文Ｂ | 4単位 | 2学年・3学年 | 『新 探求現代文Ｂ』（桐原書店） |

**１.学習の到達目標**

|  |
| --- |
| 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。 |

**２．評価の観点**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 |
| 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 | 目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 | 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 | 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 | 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。 |

**３．使用副教材**

|  |
| --- |
| 『新 探求現代文Ｂ 準拠 予習復習ノート』 |

**《Ⅰ部》**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 随想 | 自己とは何か（あるいはおいしい牡蠣フライの食べ方）　村上春樹  （p.8～p.15） | ３ | ・随想の読み方を習得する。  ・筆者の述べる物語の作り方と、他者との関係性から自分自身を認識することについての文章を読み、自分自身を捉え直す。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関「自己認識」というテーマについて関心を持ち、自分の問題として受けとめている。 | 読筆者の述べる物語の作り方について理解している。  読小説家のあり方について理解している。  読他者との関係性から自分自身を認識するということについて理解している。  書自分の好きなものについて文章を書き、自分自身を捉え直す。 | 知全文を正しく音読している。  知「物語とは風なのだ。」という表現の意味を理解し、味わっている。  知村上春樹の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 評論Ⅰ | 読む　外山滋比古  （p.16～p.21） | ２ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・文学作品の解釈における読者の存在の重要性と意義を理解する。  ・高度の「読み」の必要性と創造性を把握し、創造的な読みを試みることで、自らの読書生活を豊かにする。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関「読む」という動詞の意味を考えることから、教材の内容に関心を抱いている。  関本文を踏まえて、創造的な読みを実際に試みている。 | 読書物と読者の関わりと現状を的確に把握している。  読「読む」という行為が意味する内容を、さまざまな次元において理解している。  読文学作品においては高度の読みが必要であり、それは創造的な活動であることを理解している。  読高度の読みの多様性とおもしろさを「解釈」という観点から理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知「読む」行為のさまざまな意味を辞書などで調べ、理解している。  知文学作品を「読む」ことについて論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| いのちは誰のものか？　鷲田清一  （p.22～p.25） | ２ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・論理展開が明確な評論文の読解を通して、論理展開を丁寧にたどる姿勢と力を養う。  ・「生命倫理」というテーマについて理解を深める。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関現代医療をめぐる時事的な問題に関心を持ち、読解への意欲を高めている。  関「いのち（からだ）は誰のものか」という問いについて、自分に引き付けて考察を深めている。 | 読「からだは誰のものか」「いのちは誰のものか」という問いに対する捉え方の現状を理解している。  読身体の所有権に対する筆者の考えを理解している。  読末尾に示された筆者の主張を、全文の内容を踏まえて理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知「生命」と「生活」に同じ振り仮名が振られている効果を理解している。  知「身体」や「生命」について哲学的な視点から論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 小説Ⅰ | 山月記　中島敦  （p.26～p.38） | ６ | ・小説の読み方を習得する。  ・漢文体が持つ独特のリズムを味わいながら、場面の展開と登場人物の心理の変化を的確に捉える。  ・作者が描こうとしたテーマについて考え、小説を自分自身の問題に引きつけて読む姿勢を養う。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関「臆病な自尊心と、尊大な羞恥心」「人間は誰でも猛獣使いであり…」などの表現について、自分の場合を顧みて考えようとしている。 | 読登場人物の行動や心理の変化を的確に読み取っている。  読李徴が虎に変身した理由を的確に読み取っている。  読「月」に関する表現を手がかりにして、「山月記」という表題の持つ意味を考察している。  読作品の主題について理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知作品独特のリズムと文体を味わっている。  知本文中の漢詩の意味を捉え、作中での役割を理解している。  知中島敦の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 小説Ⅰ | 晴れた空の下で　江國香織  （p.39～p.45） | ３ | ・小説の読み方を習得する。  ・作品に描かれた状況・人物・心情を、丁寧な読解作業を通して的確に捉える。  ・主人公の気持ちに寄り添いながらも、客観的な視点を持って作品を理解することができる。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関江國香織とその作品について関心を持ち、調べている。 | 読本文記述を根拠にして、主人公が置かれている状況を客観的に捉えている。  読登場人物の人物像や、「妙子さん」の心情を読み取っている。  話主人公の姿を通して、年を取ることや老いること、生きることの意味ついて考え、話し合っている。 | 知全文を正しく音読している。  知擬態語や擬音語がどのような印象を与えているかを理解している。  知冒頭と末尾の段落について、表現の相違やその効果を理解している。  知江國香織の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 評論  解析Ａ | 科学と市民　池内了  （p.46～p.47） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・話題、論旨の展開を把握し、筆者の主要な見解をつかむ。  ・指示表現が指す内容を明らかにすることで、本文内容を的確に捉える。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関筆者の見解を踏まえて、「文化としての科学」について考察を深めている。 | 読16行目「それでいいのか」の「それ」が何を指しているかを理解している。  読提示された話題を把握し、論旨に沿って本文を読んでいき、これからの科学のあり方についての筆者の主張を正確に読み取っている。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知文末の強い言い切りや読み手に訴える言い回しなどに注目して、主要な見解をつかむ方法を理解している。  知直前の文に着目し、指示表現が指す内容を正しくつかむ方法を理解している。 |
| 集落の創造　藤井明  （p.48～p.49） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・本文中の対比関係に注目して、論理構造や筆者の主要な見解をつかむ。  ・本文理解に欠かせないキーフレーズを見つけ、内容を的確に理解する。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関共同体の同質性と差異性について、身近な事柄を例にとって考えている。 | 読「和辻の風土論」との対比から、「風土と住まいの対応」についての筆者の捉え方を理解している。  読本文のキーフレーズである「差違性」「同質性」を踏まえて、集団や部族の独創性はどうすることで成立するのかを説明できる。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知対照的な事柄を挙げ、比較する形式を取ることで、伝えたい事柄が効果的に説明されることを理解している。  知「キーフレーズ」が筆者の主要な見解を説明する上での必須表現であることを理解している。 |
| 「もどかしさ」の融合　佐佐木幸綱  （p.50～p.51） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・具体例の働きを理解して、論旨や筆者の主要な見解をつかむ。  ・効果的な表現に込められた筆者の意図を汲み取る。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関短歌における読者と作者の「<共犯関係>」について、本文に挙げられている以外の歌にも当てはめて考えている。 | 読具体例として挙げられている湯川秀樹の鑑賞はどのようなことを説明するために用いられているか、理解している。  読読者と作者の関係が「<共犯関係>」と表現されていることは、どのような効果をもたらしているかを考察している。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知具体例の内容を的確に捉えることは、筆者の抽象的な見解を把握する大きな助けとなることを理解している。  知かぎかっこの使用など、効果的な表現の意図を理解している。 |
| 「可能性」としての貨幣　西部忠  （p.52～p.53） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・論理構造を読み解き、話題に対する筆者の見解やその根拠をつかむ。  ・接続表現から文脈を捉え、論理展開を把握する。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関自分たちにとって身近な貨幣について、筆者の言う「可能性」という観点から改めて見直している。 | 読11行目「つまり」や、16行目「しかし」などの接続表現の働きを、前後の内容を踏まえてそれぞれ説明できる。  読「貨幣は諸刃の剣を持つ『可能性』なのだ。」という筆者の見解の根拠を理解している。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知筆者の見解とその根拠を押さえ、「～は（話題）、～だから（根拠）、～である（見解）。」の形で主張を整理できることを理解している。  知段落冒頭やその他の接続表現に注目し、前後の文脈や文章構成をつかむ方法を理解している。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 評論Ⅱ | イスラム感覚　藤原新也  （p.54～p.62） | ４ | ・二項対立による比較対照に着目し、評論の基本的な読み方を習得する。  ・世界の言語や文字に対して関心を持つ。  ・日本人と規範の関係についての筆者の考えを読み取り、自らの問題として考える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関世界の言語や文字について、図書館やインターネットなどを利用して調べている。  関日本人・日本社会についての筆者の指摘を、自分の問題として受けとめている。 | 読導入（アラビアの文字の印象）→本論（風土と文字と宗教）→展開（日本人と規範）という構成を的確に捉えている。  読イスラム教とヒンドゥー教の比較を通して、風土と規範の問題を読み取っている。  読日本人と規範の関係について、歴史的な観点を含めて理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知「抽象的」「身体」などのキーワードの意味を正確に理解している。  知アラビア文字、イスラム教、ヒンドゥー教について、自分で調べたうえで正しく理解している。 |
| 行動としての話し言葉　竹内敏晴  （p.63～p.71） | ３ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・演劇における台詞を通して、話し言葉の特徴と力を理解する。  ・行動としての話し言葉という意味を捉え、自分自身の話し言葉を充実させる。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関筆者の主張を読み取りながら、身体論への興味・関心を深めている。 | 読日本の現状と筆者の考える話し言葉との二項対立で展開される構成を的確に捉えている。  読学生たちの話し言葉について、問題点と原因を的確に捉えている。  読現代の日本の芝居において、台詞が行動として語られていない状況を読み取っている。  話「つう」の台詞を「行動としての話し言葉」として演じることができる。 | 知全文を正しく音読している。  知「からだと思考の硬直」の意味を正確に理解している。  知「身体論」について書かれた他の評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 詩 | 天景・猫　萩原朔太郎  （p.72～p.73） | １ | ・詩の基本的な読み方を習得する。  ・音読や暗誦を通して、詩の持つ音楽性を発見する。  ・擬人法やオノマトペなどの優れた表現を味わう。 | 関本文中に出てくる語句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関繰り返し音読し、作品のリズムやイメージを味わっている。 | 読詩に描かれた情景や情感を的確に捉えている。  読［天景］七五調の音律やリフレインが作品全体に軽やかな印象をもたらしていることを理解している。  読［猫］独特なオノマトペの効用に着目して、鑑賞に生かしている。 | 知全文を正しく音読している。  知伝統的な音律数（七五調）の効果を理解している。  知詩におけるオノマトペの効果について理解している。  知萩原朔太郎の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 死なない蛸　萩原朔太郎  （p.74～p.75） | １ | ・詩の基本的な読み方を習得する。  ・散文的な表現の詩を味わう。  ・死なない蛸に託されているメッセージについて考えを深める。 | 関本文中の重要語の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関全文を音読し、印象に残った点を発表している。 | 読「蛸」や「水族館の水槽」の印象をイメージしている。  読倒置法や句点の多用による散文詩的な表現を理解している。  読詩における飢餓感の持つ意味を理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知散文詩の表現上の効果を理解している。  知萩原朔太郎の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 詩 | 鮪に鰯　山之口貘  （p.76～p.77） | １ | ・詩の読み方を習得する。  ・作品の持つ批評性（風刺性）を捉える。  ・作品の随所に生じているユーモアを理解し、鑑賞を深める。 | 関本文中に出てくる語句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関全文を音読し、印象に残った点や疑問点を発表している。  関この詩の背景にある社会的事件について関心を持ち、調べている。 | 読〈鮪〉に視点を置いて作品が発信しているメッセージ性を的確に捉えている。  読作品の随所に生じているユーモアを理解し、鑑賞している。  読最後に出てくる〈鰯〉が作品の中で果たしている役割を理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知第五福竜丸事件について、基本的な知識を持っている。  知山之口貘の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| ふと　吉原幸子  （p.78～p.79） | １ | ・詩の読み方を習得する。  ・作品を成り立たせている一語一語の風合いを味わう。  ・言葉と真摯に向き合おうとする詩人の心性や姿勢を理解し、鑑賞する。 | 関本文中の重要語の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関全文を音読し、印象に残った点や疑問点を発表している。  関言葉の持つ逆説性というテーマに関心を持ち、積極的に内容を理解しようとしている。 | 読「白い芍薬の花」の散るイメージが、「だいじなことば」が去っていく瞬間の痛みを伝えるうえで効果を上げていることを理解している。  読第四連の内容が、比喩的役割を果たしていることを理解している。  読最終連に注目し、〈わたし〉と「ことば」の結びつきについて考えている。 | 知全文を正しく音読している。  知「ことばのなきがら」「暗号をつくりはじめる」などの特色ある表現の意味を正しく理解している。  知吉原幸子の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 永訣の朝　宮沢賢治  （p.80～p.83） | １ | ・詩の読み方を習得する。  ・表現上の特色を捉え、詩の言葉が持つ魅力を発見する。  ・対照的な語句群に注意して、作品全体の構成を的確に捉える。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関作者宮沢賢治の作品や生涯に関心を持ち、調べている。 | 読作品全体の構成や情景描写の特徴を理解している。  読「いもうと」に対する「わたくし」の心情を作品の展開に沿って的確に読み取っている。  読作品の末尾に示された「いもうと」と「わたくし」が希求するものを理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知不吉でまがまがしいイメージの語群と清らかで澄明なイメージの語群の対照を的確に捉え理解している。  知関連する他の作品を読むなどして、宮沢賢治の詩作品への理解を深めている。 |
| 評論Ⅲ | 科学者とは何か　村上陽一郎  （p.88～p.95） | ４ | ・評論の読み方を習得する。  ・現代科学の特徴を理解し、現代科学が直面している問題を認識する。  ・現代において求められている科学者像についての筆者の主張を踏まえて、自らの学ぶ姿勢や方向について考える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関環境問題や学問・科学のあり方に関心を持っている。  関筆者の主張を踏まえて、自らの学ぶ姿勢や方向について考えている。 | 読接続語の働きなどに注意して、本文の構成と内容を的確に捉えている。  読環境問題に対処するためには、自然科学と人文・社会科学の協力が必要であることを読み取っている。  読現代において求められる科学者のあり方について、筆者の主張を理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知「たこつぼ」などの比喩的表現の意味を正しく理解している。  知接続詞の働きについて理解を深め、文脈の把握に生かしている。  知学問の専門化の弊害について理解している。 |
| 暴力はどこからきたか　山極寿一  （p.96～p.105） | ３ | ・評論の読み方を習得する。  ・共同体の発展と暴力との関係性を認識する。  ・筆者の主張を読み取り、戦争や暴力を抑止する手段を考える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関戦争や暴力について、その現状や原因に関心を持っている。  関現代の共同体の抱える問題を理解し、戦争や暴力についてを自分の問題として受けとめている。 | 読チンパンジーと人間の戦いの特徴を捉えている。  読言語の発展や農耕社会の出現が戦争や暴力の規模を大きくした事実と、その原因とを読み取っている。  読人間のアイデンティティーの特徴と、ボーダーレスに突入した時代の関係性から現代の戦争や暴力の特徴について読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知各段階の共同体における戦争や暴力についての具体的な事例を、自分で調べたうえで正しく理解している。  知国家や社会について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | **知**知識・理解 |
| 小説Ⅱ | 靴の話　大岡昇平  （p.106～p.116） | ５ | ・小説の読み方を習得する。  ・作品に描かれた状況・人物・心情を、丁寧な読解作業を通して的確に捉える。  ・「事実」を正確かつ理性的に描き出していく文章表現の魅力を味わう。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関大岡昇平とその作品について関心を持ち、調べている。 | 読描かれた出来事や行動を、時間の経過に従って整理している。  読戦場において「事実」だけが「正しく重要であった」とする主人公の心情を的確に捉えている。  読極限状況の中で浮かび上がった生々しい人間の姿を的確に捉えている。 | 知全文を正しく音読している。  知「正当化」「正しくかつ重要」など、用いられている表現の意味を、厳密かつ明確に押さえている。  知大岡昇平の他の作品（「野火」「俘虜記」など）を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| バックストローク　小川洋子  （p.117～p.132） | ５ | ・小説の読み方を習得する。  ・作品に描かれた状況・人物・心情を、丁寧な読解作業を通して的確に捉える。  ・抑制をきかせながらも、感情や印象を細やかにうかがわせる文章表現の魅力を味わう。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関小川洋子とその作品について関心を持ち、調べている。 | 読現在－回想－現在という作品の構成を的確に捉えている。  読弟と父・母・「わたし」との関係性を、それぞれ的確に捉えている。  読弟の左腕が上がったままになったこと、泳いでいる途中に付け根から抜けてしまったことの理由を読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知「巨大な石の棺」などの比喩的表現の意味を、正しく理解している。  知小川洋子の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 評論Ⅳ | 動物の信号と人間の言語　大庭健  （p.133～p.139） | ３ | ・二項対立による比較対照に着目し、評論の読み方を習得する。  ・「動物の信号」との比較を通して、「人間の言語」の特徴を理解する。  ・「言語」の働きについて考え、自らが豊かな「言語」の使い手となる意識を持つ。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関筆者の主張を読み取りながら、言語論への興味・関心を深めている。 | 読「信号」と「言語」の二項対立で展開される構成を的確に捉えている。  読「信号」と「言語」それぞれの特徴を読み取っている。  読「創造性」を持つ「言語」により世界が「分節化」されていることを読み取っている。  読「言語」と指示内容との関連を、人間の思考特徴と関連づけて理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知「信号｣「因果関係」｢創造性｣「分節」などのキーワードの意味を正確に理解している。  知「言語」について書かれた他の評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 木を伐る人／植える人　赤坂憲雄  （p.140～p.149） | ３ | ・二項対立による比較対照に着目し、評論の読み方を習得する。  ・「自然破壊」と「自然保護」、その二つの関連性などについての理解を深める。  ・これからの時代における自然と人間との関わりについて考えを深める。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関表題から想像する内容を手がかりに、本文の内容に興味・関心を持っている。  関これからの時代における自然の利用と保護について、自らの課題として受けとめている。 | 読「木を伐る」ことによって人間は生きることができるという論理を的確に捉えている。  読三内丸山遺跡の例から、「木を伐る」ことと「木を植える」ことが同時に行われることの重要性を読み取っている。  読今後においての自然と人間との関係性について、筆者の主張を理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知自然破壊や自然保護についての具体的な事例を、自分で調べたうえで正しく理解している。  知自然環境について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| ファッションの遊戯性　河野哲也  （p.150～p.155） | ２ | ・評論の読み方を習得する。  ・ファッションはそれ自体を楽しむ遊戯であるという筆者の考え方を理解する。  ・世界はファッションと同じように常に変化し、不変不朽の価値や目的を持たないということについて考えを深める。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関筆者の主張を読み取りながら、本文の内容に興味・関心を持っている。 | 読ファッションが個性と同調を同時に追求する両価的なものであることを理解している。  読ファッションが「死と虚無を予感させる」という意味について的確に捉えている。  話「ファッションの遊戯性」とは何か、身近な例を挙げながら話し合うことできる。 | 知全文を正しく音読している。  知「共時的」「通時的」「差異化」「同化」などのキーワードの意味を正確に理解している。  知「ジェンダー」「パーソナリティ」「モード」などの外来語についての意味を正確に理解している。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 小説Ⅲ | こころ　夏目漱石  （p.156～p.189） | ９ | ・小説の読み方を習得する。  ・まとまった分量のある小説を読み、場面の展開や登場人物の心理の変化を捉える力を養う。  ・主題の把握を通して、人の心の不可思議さについて考えを深める。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関夏目漱石とその作品に関心を持ち、調べている。  関作品全体を振り返り、主題について考察している。 | 読「上」「中」「下」からなる作品全体の構造を理解している。  読「上」の部分から「先生」の境遇・心理を的確に読み取っている。  読「下」の部分から、「私」のＫに対する心理の推移を的確に読み取っている。  読「下」の部分から、Ｋの自殺の理由について考察している。  読「下」の部分から、Ｋの死後の「私」の生き方について考察している。 | 知本文を正しく音読している。  知現在ではあまり使われない語彙について、辞書で調べたうえで理解している。  知「こころ」の全文を読み、作品全体への理解を深めている。  知夏目漱石の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 評論Ⅴ | 「である」ことと「する」こと　丸山真男  （p.192～p.204） | ５ | ・評論の読み方を習得する。  ・長文の評論を読み、二項対立を基本とした論構成を理解する。  ・「民主主義」「自由」「近代化」など、普遍的なテーマへの理解を深める。  ・日本の近代化の特質とその問題点を論じた内容を、現代の課題として捉え直す。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関表題から想像する内容を手がかりに、本文の内容に興味・関心を持っている。  関日本の近代化の特質とその問題点について論じた内容を、自らの課題として受けとめている。 | 読対比的な論述に注意して、本文の構成と内容を的確に捉えている。  読「『である』こと」と「『する』こと」の概念をそれぞれ理解している。  読「である」論理から「する」論理への推移のしかたと、その問題点を理解している。  読「『である』こと」と「『する』こと」をめぐる価値の倒錯について理解したうえで、それを再転倒する方法を把握している。 | 知全文を正しく音読している。  知「民主主義」「自由」「近代化」など、本文のテーマに関わる重要語の意味を正しく理解している。  知日本の近代化について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 戯曲 | 動物たちのバベル　多和田葉子  （p.205～p.214） | ５ | ・自ら問いを設定し、答えを考える。  ・話し合い活動を通して、考えを伝え合い、自分の考えを深める。  ・実際に演じることで、作品への理解をより深める。 | 関課題を積極的に見つけ出そうとしている。  関多和田葉子とその作品に関心を持ち、調べている。 | 読本文から読み取れる現代批評について的確に捉えている。  話自分の考えを的確に伝えることができる。  話相手の話を的確に聞き取り、グループ全体の考えとしてまとめることができる。 | 知旧約聖書に出てくる「ノアの箱船」や「バベルの塔」の比喩について理解している。  知第一幕、第二幕を読むなどして、作品全体についての理解を深めている。  知演じることを通して、作品への理解をより深めている。 |

**《Ⅱ部》**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 評論Ⅰ | オブジェとイマージュ　高階秀爾  （p.216～p.223） | ３ | ・二項対立による比較対照に着目し、評論の読み方に習熟する。  ・視覚でものを捉えるときの感覚的喜びを理解する。  ・筆者の主張を踏まえて、自分自身が芸術に触れる際の感性を磨く。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関自分自身の視覚的、感覚的な喜びについて実感し、考察している。 | 読実物と絵画の関係性について的確に理解している。  読「オブジェ」と「イマージュ」の特質について的確に理解している。  読感覚的喜びの原因や背景について的確に読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知「モナ・リザ」など、世界的に有名な絵画について理解している。  知「芸術」について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 言葉の〈意味〉と〈表徴〉　中村雄二郎  （p.224～p.229） | ３ | ・評論の読み方に習熟する。  ・言語論における基本的な考え方への理解を深める。  ・言語論を踏まえて、日本語や日本文化の問題について考察する。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関言語やコミュニケーションの問題に関心を持っている。  関「日本語の問題」への筆者の見解について、自分の意見を持っている。 | 読逆説を用いつつ、二項対立を高次なものへと止揚していく構成を理解している。  読コミュニケーションにおける「言語使用の二種類」についての説明を的確に読み取っている。  読「言語使用の二種類」について言語・文化による差異があることを理解している。  読日本語・日本文化の特質としての〈表徴〉性を、具体例に即して読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知「意味性」「表徴性」というキーワードの意味を、具体例と結びつけて正しく理解している。  知「言語」や「日本語・日本文化」について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 小説Ⅰ | 檸檬　梶井基次郎  （p.230～p.240） | ５ | ・小説の読み方に習熟する。  ・青年期にある人物を主人公とした小説を丁寧に読み解き、人間というものに対する認識を深める。  ・比喩表現に注意し、たとえているものを明確にしながら、作者の表現力の豊かさを味わう。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関「私」の心理の変化をまとめながら、自分にも同様の体験がないか、考えている。 | 読「私」という青年の心と身体と生活の歴史を把握している。  読「私」の嗜好や現実に対する意識について理解している。  読作者の画家的な視点とその描写を鑑賞している。  読檸檬によってもたらされた「私」の幸福感について理解している。  読「私」の中で檸檬の意味が変化したことを理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知「願わくは」「ついぞ～ない」など、現代ではあまり使われない語彙について、正しく理解している。  知擬態語や比喩表現の効果を理解し、味わっている。  知梶井基次郎の他の作品を読むなどして、作者について理解を深めている。 |
| 愛のサーカス　別役実  （p.241～p.251） | ３ | ・小説の読み方に習熟する。  ・物語の寓意的な結末について考察し、さまざまな解釈の可能性を検討する。  ・物語の二重構造性について理解する。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関作者別役実について関心を持ち、調べている。 | 読少年と象の振る舞いと、彼らに対する街の人々の接し方を的確に読み取っている。  読サーカス一座における少年の役割について考察を深めている。  読街の人々の心情の変化について考察を深めている。  読「サーカス一座／街の人々」・「サーカス一座＋街の人々／読者」という二通りの構造を捉えている。  話自分なりの考えをもって、作品からうかがえる寓意について話し合うことができる。 | 知全文を正しく音読している。  知童話的な物語構造と結末の意外性との組み合わせを理解し、味わっている。  知別役実の他の作品を読むなどして、作者について理解を深めている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | **知**知識・理解 |
| 評論  解析Ｂ | 「物語」としての伝統　西江雅之  （p.252～p.253） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・接続表現から文脈を捉え、論理展開を把握する。  ・論理構造を読み解き、話題に対する筆者の見解やその根拠をつかむ。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関伝統を「物語」であるとする筆者の考え方を参考に、文化や歴史について関心を持って振り返っている。 | 読3行目「では」や10行目「さらに」、13行目「しかし」などの接続表現の働きを、前後の内容を踏まえてそれぞれ説明できる。  読「伝統」を「未来を懐かしむ」と表現した筆者の見解の根拠を理解している。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知段落冒頭やその他の接続表現に注目し、前後の文脈や文章構成をつかむ方法を理解している。  知筆者の見解とその根拠を押さえ、「～は（話題）、～だから（根拠）、～である（見解）。」の形で主張を整理できることを理解している。 |
| 「資本」の出現　大澤真幸  （p.254～p.255） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・指示表現が指す内容を明らかにすることで、本文内容を的確に捉える。  ・話題、論旨の展開を把握し、筆者の主要な見解をつかむ。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関資本主義が登場する社会の変化について関心を持っている。 | 読13行目「このように」が指示する内容を踏まえ、「守銭奴」はどうすることによって出現するのかを読み取っている。  読近代的な資本家はどうすることによって出現するのかという筆者の見解を的確につかんでいる。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知直前の文に着目し、指示表現が指す内容を正しくつかむ方法を理解している。  知文末の強い言い切りや読み手に訴える言い回しなどに注目して、主要な見解をつかむ方法を理解している。 |
| 博物館というメディア　村田麻里子  （p.256～p.257） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・効果的な表現に込められた筆者の意図を汲み取る。  ・本文中の対比関係に注目して、論理構造や筆者の主要な見解をつかむ。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関本文内容を踏まえ、西洋のミュージアムと日本の博物館について調べ、関心を持って比較している。 | 読10行目「制度として」、21行目「作る」について、傍点によってもたらされる表現上の効果を理解している。  読「西洋近代のミュージアム」と「日本の博物館」との違いについて、両者を対比しつつ、「市民に開く」「メディア」の二つの観点を踏まえて説明できる。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知傍点の使用などの効果的な表現の意図を理解している。  知対照的な事柄を挙げ、比較する形式を取ることで、伝えたい事柄が効果的に説明されることを理解している。 |
| 現実・相貌・物語　野矢茂樹  （p.258～p.259） | １ | ・評論の基本的な読み方を習得する。  ・本文理解に欠かせないキーフレーズを見つけ、内容を的確に理解する。  ・具体例の働きを理解して、論旨や筆者の主要な見解をつかむ。 | 関本文中の難解な語句や表現を国語辞典などを用いて調べている。  関現実をどう受けとめるのか、その知覚方法について関心を持っている。 | 読本文で用いられている「犬」は、どのようなことを説明するための例かを理解している。  読「典型的な物語」「典型的でない物語」という言葉はそれぞれどのようなものか、「物語」をキーフレーズと捉えた上で理解している。  書本文の内容を的確に要約できる。 | 知全文を正しく音読している。  知「キーフレーズ」が筆者の主要な見解を説明する上での必須表現であることを理解している。  知具体例の内容を的確に捉えることは、筆者の抽象的な見解を把握する大きな助けとなることを理解している。 |
| 評論Ⅱ | 市民社会化する家族　今村仁司  （p.260～p.269） | ５ | ・評論の読み方に習熟する。  ・緊密な論理で構成された評論文を部分部分の相互関係を理解しながら丁寧に読み、論旨の流れを把握する。  ・「近代家族」や「市民社会」に対する筆者の問題意識を把握し、これからの家族のあり方について考える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関家族、特に子どもと老人のあり方について関心を持っている。  関家族の市民社会化に抗する希望について、具体的に考えている。 | 読近代社会における「三つの家族制度」（家族・市民社会・国家）の関係について理解している。  読資本主義の浸透により、家族が変化していく過程を理解している。  読家族のデモクラシー化、市民社会化がもたらす事態を理解している。  読人間や家族が社会化した現状に対する筆者の主張を的確に読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知「ゲマインシャフト」「ゲゼルシャフト」「ポジティブ」「パラレル」など、外来語の意味を正しく理解している。  知「家族」や「近代社会」について論じた評論を読むなどして、理解を深めている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 評論Ⅱ | 身体と出現　平野啓一郎  （p.270～p.277） | ３ | ・評論の読み方に習熟する。  ・「帰納」や「演繹」など評論特有の考え方に触れ、的確に理解する。  ・人間の身体と周囲の関係性に着目し、人間の存在についての認識を深める。 | 関本文中の重要語の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関身の回りのものと身体の関わりについて、本文内容を踏まえて考察を深めている。 | 読人類絶滅後の地球に来たエイリアンの例を出すことで、筆者はどのようなことを説明しようとしているかを理解している。  読「ジャレド・ダイアモンドの説」や「起源神話」から、人間と自然の関係について、どういったことが考えられているか、理解している。  読人間にとっての宗教と芸術の意義について、筆者の考え方を的確に読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知本文に登場する難しい言葉や引用されている説や作品について、基本的な知識を持っている。  知本文内容を手がかりにして、「帰納」と「演繹」はそれぞれどのような考えの筋道であるかについて、考察を深めている。 |
| 随想 | 沙魚　ドリアン助川  （p.278～p.290） | ３ | ・随想の読み方に習熟する。  ・筆者の内面が揺れ動くさまを丁寧にたどりながら、他者理解の問題について考えを深める。  ・東京大空襲を題材とした随想を読み、戦争や平和の問題について認識を深める。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関太平洋戦争についての知識を確認し、本文の話題への関心を高めている。 | 読東京大空襲の惨劇について、筆者がどのような問題意識を持っているかを理解している。  読料理人との間で生じた「気まずい事件」の経緯と事件後の筆者の心情を的確に捉えている。  読筆者と料理人の「仲直り」の経緯を押さえ、その後の筆者の心情を的確に読み取っている。  話禍害と被害の歴史の両面について、本文を参考に話し合いを行っている。 | 知全文を正しく音読している。  知本文中で「沙魚」がどのようなものとして表現されているか、理解している。  知東京大空襲など、太平洋戦争について基本的な知識を持っている。  知「戦争」を題材とした随想や小説を読むなどして、考察を深めている。 |
| 評論Ⅲ | 「普遍性」　茂木健一郎  （p.291～p.300） | ４ | ・評論の読み方に習熟する。  ・普遍性と多様性のあり方について考察をした評論文を読み、今後の世界の方向性について考えを深める。  ・抽象性の高い文章を丁寧に読み、論旨の流れを把握する。 | 関本文中の重要語の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関グローバリズムの現状や問題点について関心を持っている。 | 読持続可能性が多様性を育むことを理解している。  読現代社会における普遍性概念の誤用について理解している。  読プロセスに作用する普遍性こそが多様性を生み出すという筆者の主張を読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知「アンチテーゼ」「モノカルチャー」「グローバリズム」など、外来語の意味を正しく理解している。  知普遍性や多様性について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 詩人のふるさと　富岡多惠子  （p.301～p.309） | ４ | ・評論の読み方に習熟する。  ・一人の詩人の芸術的葛藤について論じた評論を読み、表現という行為の本質について理解を深める。  ・引用されている犀星の詩を丁寧に読み、詩の鑑賞力を高める。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関室生犀星の生涯に関心を持ち、調べている。 | 読「犀川」書き換えの事情と問題点、「寂しき春」の加筆の問題点を理解し、筆者の抱く疑問点を的確に捉えている。  読詩人と若書きの関係を的確に捉えている。  読「詩人である」と「詩人になる」との違いを把握し、詩作や詩人に対する筆者の考えを理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知室生犀星について、文学史的な知識を持っている。  知「文学」や「芸術」について論じた評論を読むなどして、考察している。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 小説Ⅱ | 畜犬談　太宰治  （p.310～p.324） | ５ | ・小説の読み方に習熟する。  ・作品に描かれた状況・人物・心情を、丁寧な読解作業を通して的確に捉え、さまざまな解釈の可能性を検討する。  ・作者独特のユーモラスな文章表現の魅力を味わう。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関太宰治とその作品について関心を持ち、調べている。 | 読「私」が犬を嫌いだとする理由を読み取っている。  読「私」の犬に対する接し方と、ポチを飼う事になったいきさつを読み取っている。  読「私」とポチとの関係性とその変化を捉えている。  読結局「私」がポチを殺さなかった理由と、作者の芸術観を捉えている。 | 知全文を正しく音読している。  知大げさな表現や、繰り返しの表現から生まれるユーモアを理解し、味わっている。  知太宰治の他の作品を読むなどして、作者について理解を深めている。 |
| アノマロカリス　松浦寿輝  （p.325～p.333） | ３ | ・小説の読み方に習熟する。  ・作品中で表現されている、異なる「時間」が持つ意味をそれぞれ理解する。  ・独特のモノローグで成り立つ作品の魅力を味わう。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関松浦寿輝とその作品について関心を持ち、調べている。 | 読作品で表現されているいくつかの異なる「時間」を捉えている。  読本文中に出てくる「甘さ」の意味について読み取っている。  読「また詩を書いてみようか」と思った理由を読み取っている。  話エスカレーターが作品にどのような意味をもたらしているか、話し合うことができる。 | 知全文を正しく音読している。  知独特な表現の美しさを理解し、味わっている。  知バージェス化石など、作品理解に不可欠な事物について調べてるなどして、理解を深めている。 |
| 評論Ⅳ | ファンタジー・ワールドの誕生　今福龍太  （p.334～p.341） | ４ | ・評論の読み方に習熟する。  ・西欧世界による非西欧世界への認識の変遷について考察した評論を読み、自らの文化や世界に対する見方を捉え直す。  ・難解な用語や表現を含む評論文を丁寧に読み解き、筆者の主張を的確に捉える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関「ファンタジー」という言葉から連想するものを手がかりに、教材の内容に関心を高めている。 | 読筆者の言う「ファンタジー・ワールド」とは何かを大まかに理解している。  読観光客の「写真撮影」や「買い物」についての筆者の考察を的確に読み取っている。  読西洋人と植民地の関係に対する筆者の見解を的確に読み取っている。  読「ファンタジー・ワールド」という表題に込められた意味を理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知評論特有の難解な語彙について、正しく理解している。  知多用されている｢ ｣の用いられ方を確認し、その意図を理解している。  知西欧世界と非西欧世界の関係について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 霧の風景　桑子敏雄  （p.342～p.349） | ３ | ・評論の読み方に習熟する。  ・風景とはどのようなものかについて関心を持つ。  ・風景の喪失は人間の危機であり、そのことに気づかないこともまた危険なことであることを実感する。  ・和歌や水墨画についての論評を含む評論文を丁寧に読み解き、筆者の主張を的確に捉える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関掲載されている式子内親王や藤原定家の和歌、長谷川等伯の「松林図」について関心を持ち、調べている。 | 読式子内親王と藤原定家の和歌との関係性と、それぞれの和歌の特徴を捉えている。  読「松林図」が五感に訴える作品であり、風景の本質を示唆するものであることを捉えている。  読風景とそれにまつわる危機について読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知式子内親王、藤原定家、長谷川等伯の文学・芸術上の位置づけについて、基本的な知識を持っている。  知「風景」や「感性」について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| ポストモダンと排除社会　東浩紀（p.350～p.356） | ３ | ・評論の読み方に習熟する。  ・情報技術の発展によって、多様な価値観を生み出す一方で、強力な管理社会を生み出すという筆者の見解を理解する。  ・ポストモダン社会をどのように生きていくか、自分の問題として捉える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関インターネットの発達や情報技術の発展がもたらす社会の変化に関心を高めている。 | 読筆者の言う「規律訓練型権力」「環境管理型権力」の意味を理解している。  読「二十一世紀型の情報技術」と「個人情報」の関係についてまとめることができる。  話社会と個人の関係について話し合うことができる。 | 知全文を正しく音読している。  知評論特有の難解な語彙について、正しく理解している。  知情報論に関する評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 評論Ⅳ | 麦わら帽子のへこみ　穂村弘  （p.358～p.362） | １ | ・短歌評論を読み、短歌において重要な二つの要素（「共感」と「驚異」）について理解する。  ・筆者のいう「クビレ」について理解する。  ・筆者の考えを参考にして、「短歌八首」の鑑賞や、友達の作った短歌の批評をする。 | 関本文中の重要語の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関初心者と歌人の違いについて述べた文章を読み、その内容を積極的に理解しようとしている。  関本文から読み取った筆者の考えを、短歌の鑑賞や批評に生かそうとしている。 | 読短歌において重要な二つの要素を理解している。  読初心者の歌と歌人の歌の「共感」性の違いを理解している。  読短歌における「驚異」とは何か理解している。  読筆者のいう「クビレ」について理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知例として挙げられている作品の歌意を把握している。  知石川啄木と俵万智の経歴や作品の特色について、基本的な知識を持っている。 |
| 短歌八首　正岡子規ほか  （p.363～p.364） | ３ | ・短歌の読み方を習得する。  ・短詩型文学固有の表現の特質を理解する。  ・作品に詠まれている自然や人生、生活を味わい、自然や人間を見る目を養い、感性や想像力を豊かにする。 | 関本文中の重要語の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関繰り返し音読し、作品のリズムやイメージを味わっている。  関近現代の短歌史や各歌の作者に関心を持ち、調べている。  関各歌から受けた印象を自分の言葉でまとめている。 | 読表現に即して、各歌に詠まれた情景や心情を的確に捉えている。  読各作者の文学に対する考え方、主張、個性を、作品の言葉を通して理解している。  読句切れ、句跨り、倒置、分かち書きなど、短歌の表現技巧の効果を理解している。  話短歌会を通して、日頃の生活の中で感じたり考えたりしたことを短い言葉で表現できる。 | 知各歌を正しく音読している。  知短歌のリズムとその効果について理解している。  知短歌の表現技巧を理解している。  知近現代の短歌史や各歌の作者について、基本的な知識を持っている。 |
| 俳句八句　飯田蛇笏ほか  （p.365～p.366） | ３ | ・俳句の読み方を習得する。  ・短詩型文学固有の表現の特質を理解する。  ・作品に詠まれている自然や人生、生活を味わい、自然や人間を見る目を養い、感性や想像力を豊かにする。 | 関本文中の重要語の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関繰り返し音読し、作品のリズムやイメージを味わっている。  関近現代の俳句史や各句の作者に関心を持ち、調べている。 | 読表現に即して、各句に詠まれた情景や心情を的確に捉えている。  読各作者の文学に対する考え方、主張、個性を、作品の言葉を通して理解している。  読季語、切れ字、取り合わせなど、俳句の表現技巧の効果を理解している。  話俳句会を通して、日頃の生活の中で感じたり考えたりしたことを短い言葉で表現できる。 | 知各句を正しく音読している。  知俳句のリズムとその効果について理解している。  知俳句の表現技巧を理解している。  知各句の季語について、「歳時記」で調べている。  知近現代の俳句史や各句の作者について、基本的な知識を持っている。 |
| 小説Ⅲ | 舞姫　森鴎外  （p.370～p.401） | ８ | ・小説の読み方に習熟する。  ・擬古文を用いた近代小説を読み味わうことにより、小説の多様な表現形式に触れる。  ・作品の背景にある時代と文化の状況について理解を深める。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関擬古文による表現の魅力を積極的に味わおうとしている。  関登場人物を自分に置き換えて、その心理を分析しようとしている。  関明治という時代についての知識を発表し合い、作品の背景をまとめている。 | 読豊太郎の人物像を、近代日本における立身出世主義という視点から理解している。  読自我に目ざめた豊太郎の心の変化を的確に捉えている。  読豊太郎とエリスとの関係の変化を的確に読み取っている。  読相沢との関係から生じた豊太郎の心の迷いについて考察している。  読作品の主題について考察している。 | 知本文を正しく音読している。  知擬古文による表現を理解している。  知作品の時代背景について、基本的な知識を持っている。  知森鴎外の他の作品を読むなどして、作者についての理解を深めている。 |
| 単元名 | 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | |
| 関関心・意欲・態度 | 話話す・聞く能力、書書く能力、読読む能力 | 知知識・理解 |
| 評論Ⅴ | 支配の役割　小坂井敏晶  （p.404～p.409） | ３ | ・評論の読み方に習熟する。  ・文化や社会制度の役割について考察した難度の高い評論を読み、「近代民主主義社会」の本質への理解を深める。  ・「不平等」や「支配」に対する筆者の説明を踏まえ、自己の生き方について考える。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関世界史的な観点から差別や不平等の歴史を考え、表題「支配の役割」と関連づけて、教材の内容に関心を持っている。  関不平等や支配に対する筆者の説明を踏まえ、自己の生き方について考えている。 | 読他の生物との認知の比較から、人間に文化が必要になった事情を理解している。  読人間の思考や行動に文化が与える制約と利点の双方を的確に捉えている。  読支配の定義と強制力との関係を理解している。  読支配や不平等が人間にとって本質的なものであることを理解している。 | 知全文を正しく音読している。  知評論特有の難解な語彙について、正しく理解している。  知「近代民主主義社会」について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |
| 地図の想像力―ボードリヤールの寓話―　若林幹夫  （p.410～p.420） | ４ | ・評論の読み方に習熟する。  ・人が帰属するさまざまな社会とどのように関わり合っているかについて考える。  ・地図を通して、自分の世界や社会に対するイメージを明確にする。 | 関本文中の重要語や慣用句の意味を国語辞典などを用いて調べている。  関さまざまな地図とその社会的・歴史的背景について、関心を持っている。  関さまざまな社会とその差異、発達の経過について、関心を持っている。 | 読ボルヘス＝ボードリヤールの寓話から、地図が世界についての認識を規定していることを捉えている。  読社会の定義と、社会が地図により空間的に認識されていることを捉えている。  読地図とは主観的なものであり、人間の認識に影響をあたえるものであることを読み取っている。 | 知全文を正しく音読している。  知評論特有の難解な語彙について、正しく理解している。  知「社会」や「認識」について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。 |

**《表現編》**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 教材名 | 時間数 | 学習目標 | 評価の観点 | | | | |
| 関心・意欲・態度 | 話す・聞く能力 | 書く能力 | 読む能力 | 知識・理解 |
| 表現１　本を紹介する  （p.422～p.423） | １ | ・話の組み立て方を工夫して、本の魅力を的確に伝えられるようにする。  ・本の紹介を通して、自らの読書の幅を広げる。 | ・本を紹介することに意欲的に取り組んでいる。 | ・話の組み立て方を工夫し、聞き手にわかりやすく話すことができる。  ・話し手の話の内容を整理しながら聞くことができる。 | ・本の紹介文を完結にまとめることができる。 |  | ・本の魅力を的確に紹介する方法について理解している。 |
| 表現２　討論をする  （p.424～p.425） | ２ | ・現代社会の諸問題を調べ、その解決に向けた取り組みについて、自分の意見を述べる。  ・発言者の意見を自分自身の生き方に関わる課題として捉え、解決方法を判断する材料にする。 | ・現代社会の諸問題に関心を持っている。  ・積極的に討論に参加している。 | ・しっかりとした根拠を示しながら、自分の意見を述べることができる。  ・話の内容を整理しながら聞くことができる。 |  |  | ・現代社会の諸問題についての知識を持っている。 |
| 表現３　小論文を書く  （p.426～p.429） | ２ | ・課題に対して、自分の視点と考えを明確にする。  ・具体例を示し、考えの根拠を明らかにする。  ・構成を意識しながら、論旨が伝わるように書く。 | ・課題に対して、自分の視点と考えを明確にしようとしている。 |  | ・構成を意識し、文脈を整えて、自分の考えをまとめることができる。 |  | ・小論文の書き方について理解している。 |
| 表現４　文学作品について調べて発表する  （p.430～p.434） | ３ | ・文学作品について調べることによって、作品への理解を深める。  ・資料検索の方法を学び、必要な情報を選び取る力を身につける。  ・他の生徒の発表を聞き、多様な考え方や感じ方を知るとともに、自分の視野を広げる。 | ・疑問点や課題を自ら見つけだそうとしている。  ・積極的に情報収集をしている。 | ・聞き手の興味をひくように、話の組み立てを工夫している。  ・話の内容を整理しながら聞くことができる。 | ・調べた結果をわかりやすくまとめることができる。 |  | ・資料検索の方法について理解している。 |
| 表現５　短歌を作る  （p.435～p.437） | １ | ・日頃の生活の中で感じたり考えたりしたことを、短い言葉で表現する力を養う。  ・短歌を作ることで、創作する喜びと、人に伝える喜びを味わう。 | ・自分の日常生活の中から積極的に短歌の題材を探そうとして  　いる。  ・短歌を作ることを通して、創作する喜びと、人に伝える喜びを味わおうとしている。 | ・短歌会を行い、印象に残った短歌について感想を発表してい  　る。 | ・教科書の手順に従い、言葉や表現に工夫を凝らして短歌を作っ  　ている。 | ・他の生徒の作品を的確に読み、評価している。 | ・短歌の歴史や形式について基本的な知識を持っている。  ・感動や主張を言葉に変換して、短歌の形式に整えるための方法を理解している。 |